

SAT だより

SKI ASSOCIATION OF TOKYO

No.49

発行 (財)東京都スキー連盟
〒102-0083 千代田区麹町4.5
第6麹町ビル551号
TEL.(3262)2491(代)
発行日 H13.12.25発行
編集 SAT編集委員会
印刷 水戸屋紙工株式会社

会長挨拶

会長 谷 雅 雄

財団法人東京都スキー連盟は、昭和12年5月に創立され全日本スキー連盟に加盟から、65年目の年度を迎えることができました。

これは平成14年度の最初の記念すべき事業として、65周年記念式典・祝賀会が盛会に終了いたしましたことをご報告申し上げます。

このことは一重に関係各位、加盟団体及び会員の皆様方のご理解、ご協力並びにご支援の賜物であり、あらためて感謝し御礼申し上げます。

本連盟は、平成14年度の現在、加盟団体470、会員20,500余となり、日本のスキー界に誇る連名組織であり、責任ある組織としての運営を心がけなければならないところです。

これからのスキー連盟は、スキー技術の普及・強化等だけではなく、日本のスポーツ団体としての在り方と方向性を見出すことが将来に向けて大切なことです。

その在り方は、柔軟な思考と時代に合う運営をすること、更なるその運営を執行できる組織的、財政的及び社会的基盤を持つことが必要と考えます。時代と社会に適応するスポーツ団体としてのスキー連盟になるよう更なる努力が必要となります。

特に運営と財政面においては、平成14年度終了時点で過去からの負の遺産を清算できるようにするために、本年度の執行に対しては全ての面でより厳しい対応が望まれ、そこから、運営、財政基盤に基づく将来の構想が考えられるところであります。

また、会員各位におかれましては、昨今の厳しい社会情勢のなか技術研鑽だけではなく、スキーの楽しさ、おもしろさを表現し伝えていただき、スキー・スノースポーツが素晴らしいものだというをもっともっと広めていただきたいと思います。

今シーズンも、加盟団体及び会員各位のご活躍を期待し、事故、怪我の無いシーズンであることをお祈りいたします。



会長挨拶



会場風景

都連創立65周年によせて

副会長 渡辺 茂

先日に行われた(財)東京都スキー連盟創立65周年記念式典は、過去何度も実施されたものと比較して、大変に意義深いものがあったと感じています。本来ならば60年、70年と区切りの良いところで実施すべきですが、今回のように65年にした事の重要な意味合いが幾つかあります。

その一つとして、現在の執行部がスタートをして一年を経過いたしました。それ以前の6年間程は、組織の存立を根幹から揺るがすような様々な問題が発生し、都連の会員のみならず組織関連の多数の方々に大変な心労をおかけするような状態でありました。幸い組織の内外的大勢の人々の、危機感から来る建設的な意見やアドバイスを貰い、一年前に平均年齢のとても若い執行部が誕生し現在に至っております。(私の歳は別と致しまして)。執行部のスタッフの若さについては、組織が創られて半世紀以上の歴史的経緯の中で、組織運営上の知識や経験に関しては物足りない処があると思いますが、反面、過去の習慣に囚われずに未来に目を向け積極的に物事を進めてゆく姿勢が見られるのではと期待をしていますが、この式典を実施することでこれを明確な区切りとして、此処で改めて都連執行部の更なる期待と決意を期しての、都連創立65周年式典であったと受けとめています。その他のこの式典の意味合いの一つとしては、今日の経済状況の悪さから来るスキー界の低迷が、様々な分野に悪影響を与え、都連でも幾つもの問題点を抱えて大きな壁に突き当たっています。その解決策が具体的に見つからないのが現実です。

昭和初期に東京のスキーの同好の士が集まり、組織として設立した(財)東京都スキー連盟が発足して半世紀以上を経過しております。形を変えて表現するならば、人の年齢からしての65歳は、正に功なり名をとげ一段落した時であり、それから先はゆったりとゆとりのある生活を送る時です。但し組織の活動はそれと全く異なり、留まる事のない持続と高揚を求め続けるものです。

現況での都連が置かれている状況は大変に厳しいものがあると言えます。平成6年以降、現在に至るまで日本経済はバブル破綻から凋落の一途を辿って来ました。それと同じく当時1800万人居たスキー人口が、今は1300万人以下になっている状況です。スキー人口の大多数を占めているのは正に都会に住む人達であり、スキー界やスキーの関連産業を支えて来たのはこのスキーヤー達である、と言っても過言ではないでしょう。その減少は、都会のスキーヤーの集団からなる(財)東京都スキー連盟の組織活動に対しては、様々な角度から多大なマイナスの影響を与えています。この傾向がこのまま続くならば、組織活動の停滞のみならず組織の衰退に繋がる時の危惧感を持たざるを得ません。それを食い止め以前にも増してスキーヤーを増やしスキー界の活性化を図れるのは、都会の組織を構成している各スキークラブの活動の活発化・活性化しかないのではとの考えから、意識の高揚の一つの場として各クラブの創設者、リーダー、諸先輩の方々に創立65周年式典の場を設け、招聘をする事になったと思います。これからの組織運営の重点項目として、勿論、都連執行部としても傘下各クラブの協力を得ながら、これを契機としてこれから先、財政面その他さまざまな苦しい状況の中でも、常に前向きに積極的に、組織運営の健全化・活発化を図って行くことと思います。

創立65周年を契機として、是非とも都連傘下クラブの皆様をお願いしたい事は、苦しみの結果に誕生した若い執行部の活動を、永い目で温かい目で見守り、育てて行って欲しいと思います。又スキー界の復活はクラブ活動の活発化以外には考えられません。クラブ員の皆様方の、より一層の奮起をよろしくお願い致します。

都連創立65周年記念式典



表彰



鏡割り



懇親会



中締め

指導員研修会テーマについて

教育本部副本部長 増田 千春

幅広いスキーに見慣れ、従来のスキーがやけに細長く感じられる程、カービングスキーが普及してきました。ここ数年で性能が進化し、ターンの回しはじめでのポジションが確保しやすくなっています。また、ターン後半での抜け出しの良さも、スキーヤーに快適な滑走性や操作性をもたらしています。反面、このように年々進化する用具に対しての指導者の知識や情報不足により、間違っただ指導や評価もみられ、指導対応の遅れが感じられます。また、指導者自身が回しやすさや操作性の良さを活かすきれなかったり、急斜面や不整地でのコントロール技術が不足している傾向があります。

研修会では3シーズンをかけ、指向別・対象別指導法や指導の評価となる検定内容を取り扱い、新しい教程教本の理解を求めてきました。指導の現場では従来からの指導にカービングスキーの理論（技術論・指導方論・用具の知識）を加えた内容で行われています。

本来、個別指導を定期的に行える事が理想ですが、クラブ行事の講習はほとんどが短期間の集団講習です。その中で、レベルの低い人を中心とした共通の課題でプログラムを作る事は大変難しい問題ですが、集団全体の成果が上がるよう創意工夫したいものです。

主要な取得技術は、バランスをとる事、スキーを回しはじめる事、舵を取る事、ターンを切り換える事になります。従来の指導方法では、検定で取り扱われるような画一的な方法で指導が行われる傾向がありました。その結果、共通した動きからフォームを導き出し、これを反復していく事でフォームを固めていく方法がみられました。現在の用具の特性を利用していくと、比較的矯正の場面で指摘される内向や内傾、後傾といった方法でポジション作りが行われる場合が多くあります。また、基礎・応用・発展の技術レベルの枠を越えた指導バリエーションの組み合わせにより上達の成果を上げていく場合もあります。このように指導者のプログラムセンスや演出アイデアが指導の中で重要な要件となっています。また、級別テスト等でも、用具の特性を活かした滑りの結果として、フォームに現れる内向や内傾、後傾が必然的な現象か否かを見極める判断も、評価として極めて重要な事となります。

サイドカーブが利用しやすく、回しやすい用具の利点を活かすとしたら、スキーのトップ部分を利用したトップコントロールや、回りはじめてからの舵取りで、テール部分を利用したテールコントロールを明確に指導プログラム化していく工夫が必要です。トップ部分を回転内側に傾けていく、前よりの移動は結果としての内向や内傾を生じやすく、スキーのテールを外に出していくテールコントロールは結果として外向が生じ、これによりポジション（バランス）を確保していきます。その意味から、今まで以上にスキーの左右軸を回転（ローリング）させる、スキーの前後の使い方が用具の利点を引き出す大きな役割となってきます。

今シーズンの研修は、ターン運動の各局面での主要な動きや操作を整理し理解してみます。その各パーツのいくつかの主要な動きを、指導現場の状況に合わせてどうデザインするか、成果のハッキリわかるものにしていくかは、指導者のアイデアに委ねられます。スキーの基本は普遍といいながらも、スキー用具の急激な変化に合わせてスキー指導の発想も、常に柔軟に変化させていかなくてはなりません。また、スキーヤーのスピードや切り換え時の移動スペースが広がったり、止まり方で山側にスキーのトップが向く事が多くなったりと、以前とは異なる動きを見せています。安全対策面でもこれらスキーヤーの変化に対応したゲレンデマナーを指導して頂ければ幸いです。

○研修会の班編成について

今シーズンより12月研修会では、準指導員を取得して1,2年目の方と指導員受検の方に対して、特別なプログラムを設定しております。準指導員取得1,2年目の方は、ここ数年の研修会テーマと指導員検定用の研修、指導員受検の方には、後日の指導者養成を視野に入れた受検対策を目的にした研修内容です。

全国における東京の準指導員検定の受検率が20%前後であるものが指導員検定の受検率になると15%前後と落ちてしまい、多くの方が準指導員で留まっている傾向が続いています。ご存知のように準指導員取得後が理論的・技術的にも、また情熱的にも最も充実している時期です。このような方のパワーが新たなスキーヤーを呼び戻してくれる事も期待し、この時を逃すことなく連盟でもバックアップしていきたい考えでこの班編成を設定いたしました。

また、シーズン初めよりトップシーズンの条件で徹底的な滑り込みを希望する方に対して北海道研修会を設定いたしました。4月研修会では時間が取れない方に対し2日間（理論含む）の研修、競技指向の指導員の方にタイムレースを設定した研修を設定しました。

可能な限り、先生方の指導現場に適應した目的別の研修内容を設定できればと思いますが、研修規定や研修規模の大きさ等によりなかなかご要望に応える事が出来ませんが、より一層努力していきたいと思っております。

SATの雪上行事に参加する皆様方は、スキー保険への加入が義務づけられており、既にスキー保険に加入済みのことと思います。

ところで、一言でスキー保険といってもいろいろなタイプがあり、個々のスキーライフに合わせた保険に加入しないと、いざというときに役にたたない場合があるのをご存知でしょうか？

基礎スキー関係では、指導中に講習生が事故を起こした場合、指導者の賠償責任について、一般のスキー保険では補償されていないようです。この場合、「指導者」が指導する立場にある方であれば、資格の有無に関わらず、指導者用に設定された保険が必要になります。

競技スキー関係では、一般のスキー保険で、競技中の自分のケガは補償していないものもあります。競技を中心に活動される方には、競技中の傷害を補償する保険への加入が必要になります。

ところが、これらの保険はあまり一般的ではないため、扱っていない会社や十分理解をしていない代理店もあるようです。ご自分で加入されている保険を今一度見直していただき、不足しているようであれば、代理店にご相談されると良いでしょう。相談の内容によっては、特約として付帯条件を追加してくれる場合もあるようです。

また、財団法人全日本スキー連盟スキー安全会には、前述の補償を含めたいくつかの共済制度があります。この共済制度については、既に各加盟団体の事務担当者に資料が送られていますので是非参考にして下さい。

いずれにいたしましても、「入れば良い」というのではなく、ご自身に合った保険への加入を改めてご検討いただきたいと思います。

2002年度 教育本部・検定部

教育本部専門委員 検定部部长 安田 真

教育本部が担当する行事を「資格継続」の為の行事、「資格付与」の為の行事、というように分類することが出来ます。言うまでもありませんが、その目的はこれを通じて「スキーの普及発展に務める」という事になります。

また、教育本部は三つの部会が設置されており、それぞれが密接な関係を取りながら各行事に携わっていますが、検定部会には先にも述べた「資格付与」の行事を中心に動いています。

スキー界を取り巻く環境は厳しい。という言葉をよく耳にして久しくなりました。社会・経済事情も然ることながら、いわゆるスキー離れが厳しい現状を示しているようです。こうした点からも、人が人を呼び寄せる。=良い指導者の下には人が集まり

資質や人間性を含めたトータルな高い指導力を持っている人のことです。こうした指導者を排出するべく検定部が活動しています。今後とも御理解と御協力をお願い致します。以下は各行事の骨格を簡単にまとめたものです。参考にして下さい。

◇指導者養成講習会

本年度は指導員受検者と準指導員受検者を完全に分離して実施します。また、会期を2回にした事で種目の理解力・表現力が深まるでしょうし、場合によっては修正のための時間が確保されたことにもなるでしょう。有効に活用して戴きたいと思います。

理論は準指導員受検者に対し在京にて1回実施しましたが、後は雪上会場で実施します。指導員受検者は全て雪上会場となります。スキー指導を正しく行なうためには、欠くことが出来ません。本年度は「資格検定・受検者のために」という小冊子も発刊されています。必要な資料は既に示されています。忘れずに持参して下さい。

◇検定会

受検生の立場になって出来る限りスムーズな運営を考えています。この行事に携わっている方々の、更なる御協力と御理解をお願い致します。理論検定については、今後指導者として実際に必要となる事項を要求します。よく整理しておいて下さい。

指導員受検の方々は、毎年必要書類の不備が目立って指摘されています。受検現場で混乱が発生しない様、注意して下さい。

◇公認検定員検定会

本年度もB・C級の検定員検定会を実施します。受検される皆さんが携わる内容は、合格後検定員としては技能テストが中心になるかと思います。その基本は、「受検するスキーヤーが自分の現在の技術レベルを知ることで進歩の喜びを実感出来るテスト」です。合格後は立場が逆転し、「新たなレベルにチャレンジしてみよう。」という受検生を担当し適格な評価をする事になります。指導プロセスと評価システムの一貫性を持たせた内容であることを再認識してみてください。

◇技術レベルアップ講習会との関連について

2月9日(土)から実施される上記講習会では、その名の通りスキー技術のレベルアップを図ると同時に、準指導員・指導員検定受検者に対しては、模擬検定を含めたチェックアドバイスを実施する予定です。

2002年度 東京都スキー連盟教育本部指導部の活動について

教育本部専門委員 指導部部长 内藤 義弘

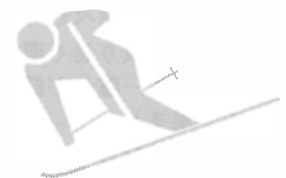
教育本部指導部では、次の3点を2002年度の活動の重点目標として掲げています。

- 1.指導員研修会の活性化
- 2.公認検定員クリニックの充実
- 3.用具セミナーの開催

指導員研修会については、昨年度より実施された年齢別とクラブ別の班編成に加え、「指導員検定を受検する指導者の班」、「準指導員取得後1年目の指導者の班」、「研修会を2年間欠席していた指導者の班」を新たに設置しました。各グループとも全日本スキー連盟の研修会テーマとともに個々の指導者の指導環境に対応したより具体的な研修テーマを設定しています。受検班ではプルークボーゲンやシュテムターンを中心とした実技検定種目の理解と正確な演技、準指導員1年目班では実地における指導管理と指導対象に応じた多様な実技素材（練習バリエーション）の実習、研修会2年欠席班では指向別指導プロセスおよび検定制度と種目の理解を特別テーマとして掲げました。また、従来からの年齢別班ではクラブ間の活発な情報交換、特にシニア班では楽しいスキーライフの創造、クラブ別班では各クラブの実状とニーズに対応した研修課題を設定し一層の充実を図ります。班編成の細分化によって、明確な研修課題のもとでより活発な研修会が展開されるものと期待されます。

公認検定員クリニックについては、「カービングスキーによるターン運動の技術的理解と正確な合否判定」を本年度のクリニックの主要課題としてとらえ展開して行きます。進歩する用具の特性とその機能を活用したスキーヤーの運動課題についてわかりやすく受講できるように、都連教育本部では8月からプロジェクトチームを結成し視聴覚教材の開発・作成にあたってきました。新たに技術理解用として作成したコンピュータソフトとジャッジトレーニング用に改編した1級規定種目テストのビデオソフトの組み合わせにより、着眼点の再確認とジャッジ能力の向上に効率的に作用するものと思われます。

用具セミナーについては、日々進化していくスキー用具の最新の専門的な情報を指導者のために提供する場として前年度の6月より設定されました。スキーの振興に大きな影響力を与える指導者向けの詳細な情報を提供していきます。一般スキーヤーへの啓蒙活動の一助として活用していただければ幸いです。



2002年度 東京都スキー連盟教育本部強化部の行事運営方針

教育本部専門委員 強化部部长 西沢 洋介

SAT教育本部強化部の今年度の方針について。

『レベルアップⅠ』については、全日本スキー技術選手権大会に出場しても十分に戦っていける選手の強化と育成を図ることを目的として、現役デモの志鷹慎吾、伊藤政照、両デモと小野塚喜保元デモ（SAT強化部副部長）と、昨年度全日本スキー技術選手権大会決勝に進出したSAT専門委員を講師として、かなりハードで緻密なトレーニングを行う予定です。

『SATスキー技術選手権大会』については、今年度は予選、準決勝、決勝と分けて、よりチャンピオンシップとしての色合いを強く打ち出して行く為に、通過ラインを予選の50%が準決勝に、また準決勝の50%を決勝に出場できる様に強化部で決めさせていただきました。また今年度はSAJジャッジワーキンググループのメンバーから、竹村幸則氏（長野県）、望月弘文氏（長野県）をジャッジのメンバーに入ってもらい、より全日本スキー技術選手権大会を見据えてSATスキー技術選手権大会もレベルアップを図って行きたいと思っております。

『レベルアップⅡ』については、資格を取ることを目的として行きますので、クラウンプライズ及び準指導員、指導員そして1級、2級を目指している方々にSAT専門委員がより種目の理解をしてスキー技術向上の為に、適切なアドバイスを行い、1人でも多くの受検生が合格される様、そのお手伝いをさせていただきますと思っております。

最後に、スキーの道具や環境が目まぐるしく変わって来ているスキー界ですが、SAT専門委員も個々のノウハウやスキー技術全てに関して、そのスピードに負けない様に、強化部として日々怠ることなく努力して行きたいと思っております。

競技本部から

競技本部専門委員 アルペン部 安川 裕

競技規則については、過去10年の間、幾度かの改正が行われております。しかし、選手の皆さんの中には、この改正の情報を的確に承知されておられない方も見受けられるようです。

競技規則は、選手が自らの権利や安全を守るためのものだと考えます。自らの権利を守るための第一歩は、競技規則(ICR)を正確に理解すること、的確な情報交換が最も大切なことです。

そのためには、クラブ単位でも結構ですので、競技会参加の際にはルールブックを携帯して頂く事をお勧めします。

なお、ルールブックは、都連事務局で扱っておりますので、在庫をご確認のうえご購入ください。

また、SAJ旗門審判講習検定会・競技運営管理講習会及びSATセッター講習・検定及び研修会に於いてルールを学ぶことも出来ますので、是非ご参加ください。

2002年度 強化指定選手一覧(アルペン)

		名前	学年	種別
中学生	女子	川端 希沙	3	B
		本田 智美	2	B
	男子	下村 航貴	3	B
高校生	女子	梅原 玲奈	3	A
		内野 未都	3	B
		竹田 恵里	2	B
		石井 美紀	2	B
		長谷川由佳	1	B
		水谷 夏女	1	B
		信夫加陽子	1	B
		西村 彩	1	B
		米岡 悠文	1	B
		武内千賀子	1	B
	男子	小山 優	3	B
		臼井 耕世	3	B
		河野 秀彰	2	B
		佐藤 梁太	2	B
		梅原 裕司	1	B
		谷口 達郎	1	B
		小林 樹生	1	B

競技本部専門委員 ノルディック部 前田 一行

いま、社会情勢はテロや狂牛病など暗いニュースばかりですが、今シーズンはいよいよソルトレークのオリンピックです。開催まですでに100日を切り現地の準備もだいぶ完成しているようです。

ノルディックの荒井秀樹さんから届いた電子メールの写真を見ると、クロスカントリーコースのゴールにはまるでホテルのような事務所が出来ていました。日本選手の活躍を楽しみにしたいものです、衛星中継で寝不足の日が続きそうです。

さて、東京都の大会ですが年末のスキーフェスティバルはここ数年歩くスキーより競技の部の参加者が圧倒的に多くどうも「フェスティバル」とは言えないようです、是非、スキー初めてのお友達を誘っていただき、フェスティバルの講習会を活用して愛好者を増やしていただきたいと思えます。

1月の南関東ブロック選手権大会は神奈川県、千葉県の手との良い交流の場にもなっており国体を目指す選手などレベルの高い大会ですが、チャレンジしていただきたいと思えます。

3月のクラブ対抗はゆっくりと競技を楽しむ選手と、クラブを代表しポイントゲッターの選手などさまざま方が参加されアットホームな大会です、より多くの参加をお待ちしております。

今シーズンもよろしくお祈りします。

競技本部専門委員 フリースタイル部 石井 慎一

平成14年度フリースタイル部の冬季行事につきましてご案内させていただきます。今年度はAlmanacに記載の通り、モーグル競技、エアリアル競技の教室/競技会を開催いたします。参加希望者は申込み要項をご確認の上、締切期日に遅れないように申込み手続きをしてください。

モーグル

今年度よりSAJA級公認競技会に加え、B級公認競技会を開催いたします。これによりA級公認競技会に出場出来ない選手にも、全日本選手権出場ポイント獲得チャンスが広がります。

国体代表選手選考につきましては、1月に開催されるポイント認定会の成績他、フリースタイル部強化委員会で検討の上選考させていただきます。

エアリアル

従来通り教室/SAJA級公認競技会を開催いたします。

教室/競技会参加の際、テクニカルポイントカード、既取得者は必ず持参してください。

アクロ競技につきましては、競技人口の減少による、SAJの「休止」決定に基づき、本連盟としましても「休止」とさせていただきます。

各種目ともSAJ公認競技会に参加する場合は、SAJ会員登録の他に競技者登録を完了していないと出場出来ませんので特にご注意ください。

フリースタイル強化指定選手	モーグル	男子/宮崎 潤・松田 亮・平子 剛	女子/益川 美喜
	エアリアル	男子/岩崎 孝幸・西川 史朗	

第55回クラブ対抗競技会に参加しよう！

スキー場であいましょう！

専務理事 副島 茂

平成13年度よりアルペン競技スラローム、ノルデック競技のクロスカントリー、新規に教育本部の基礎種目を同時に開催され大変注目をうけました、また夜は参加者と地元真田町、菅平観光協会を始め旅館組合、スキー学校、パトロール等関係者との懇親会を盛大に行うことができました。

平成14年度も第55回のクラブ対抗競技会を昨年同様に下記の日程で実施いたします。
多くの都連加盟の会員の皆様の参加を期待しております。

大会はまたまた、いろいろな企画をもって行う予定です、地元観光協会ではシーハイルコース（裏太郎）のテント村にとんじる、その他を出して盛り上げます。

夜は閉会式後、参加者による懇親会を地元の方々で行います。

競技内容につきましては、アルマナック、また別途SAT便り等にて案内をいたしておりますので、ぜひ多くの会員の方が奮って参加されますよう、期待いたします。

日程

日時 2002年3月2日（土）
場所 菅平高原 シーハイルコース
種目 競技部門・基礎部門
※アトラクション有 賞品多数用意してあります。
※詳しくは、アルマナックを参照して下さい。



アルペンインスベクション



アトラクション（ドラコン競技）



参加選手（基礎部門）



表彰



懇親会アトラクション



懇親会風景

〈競技部門〉

クラブ対抗とわが世田谷軍団

世田谷区スキー協会 理事長 佐藤日出夫

昭和24年に始まった都民大会にクラブ対抗が併設されたのがいつからか定かでないが、当初は、東京スポーツマンクラブさんが20連勝を誇るほどの圧勝であったとのこと。

わが協会は、56年と60年に優勝し、63年からは雪不足による中止2回をはさんで7連勝、次の年は無念の2位、そして、10年から4連覇中です。わが協会には特に有名選手がいるわけではないので、アルペンの個人成績で頭（1位）をとるのはごく僅か、3・4・5位あたりの「草の根集団」の得点、それも女子（大姉さま方）の稼ぎが大きいのであります。

ただ、ノルディックは圧倒的に強いと自他ともに許しています。そのせいか、都連競技本部長は、前回からリレーをなくす「世田谷いびり？」を始めた模様。「尾山さん！ 月夜の晩ばかりではないですよ」とうちの会長が言っています。さあ今年も頑張らなくては。



〈基礎部門〉

「クラブ対抗」に参加して

エーデルスキークラブ 技術部 山田 隆史

2001年からアルペン部門、ノルディック部門、基礎フォーメーション部門、基礎ベアの部門と4部構成で行われたクラブ対抗戦。前年のクラブ成績が17位だったので、今年はクラブ一丸となって去年の成績を上回るべく大会に臨みました。

新設された基礎部門では、不思議な目で見られながら団体戦の練習をするのはとても肩身狭かったのを覚えています。時には何回滑ってもまとまりがつかず、練習方法への熱い議論がかわされ、もはや内部分裂か？と思ったこともありました。

そのような苦勞もありましたが、大会本番には今までの練習以上に息がピッタリと合い、基礎部門1位。アルペン部門3位。総合成績も14位ジャンプの3位と、この上ない結果が生まれました。

スキーは個人のスポーツと言われていますが、このようにクラブ全体で練習し、戦い、勝利を共有できるクラブ対抗戦。来シーズンもクラブの重要な大会として喜びを勝ち取りたいと思っています。



ヨーロッパ・テイストの広大な12のゲレンデ 菅平高原は
東京都スキー連盟の皆様のホームゲレンデとして長く愛されています。
個性あふれるスキーエリアに描かれる新しい時代のシェパード。
築き上げたパートナーシップも、さらに新しく、さらに確かな領域へ。

永遠のホワイト・ステージ 菅平高原

TEL.0268-74-2003 <http://sugadaira.com> E-mail: info@sugadaira.com

加盟団体紹介

クラブの歴史

379 フォーレスト・スキークラブ 副会長 小林 宏

私達、フォーレスト・スキークラブは1975年全東京ライオンズスキー同好会のバックアップにより、倉本スポーツ産業と駒場商店街のスキー仲間を中心に設立されました。設立目的の中に「スキーを通じて障害者との交流を図る」という項目があり、設立20周年を記念して94年3月、菅平高原ホテルベルニナにおいて障害者と合同で1泊2日のスキーを行い楽しい一時を過ごしました。又、当時はスキー人口の急増の時期にありツアーを計画してもバス1台、2台は当り前であり、夕食から飲み会へと続き、スキー談義に、座布団スキーにと果てしなく、酒の肴にするためにスキーを滑っている様なことが思い出されます。

有資格者0から現在では13名を教え、パッチテストも行える様になりクラブで育てた会員が資格を取得し今年も2名が準指検定に挑戦する状況です。行事としてはシーズン中の毎週日曜日、越後湯沢のなぐも旅館を宿に講習会を行い、又、3回のツアーを実施しスキーの輪を広げております。課題の多い昨今のスキー界ですがスキーは楽しいという原点は忘れずに30周年に向けクラブ員一同楽しいスキーを行っております。

2001.11.6記

クラブ紹介

380 ジャポスキークラブ 山内 誠二

クラブの名前の由来はジョイフル「愉快的スキー仲間」から来ております。発足当時は会員が百数名で、女性が8割を占めておいてスキークラブと言うよりスキー旅行会のようなものでした、また、技術だけを求めている暗いクラブが我々の夜の交流会を見て技術だけでなく楽しさも入れて行くクラブへの糸道を作った事もありました。今や会員は40数名の男性が9割のクラブに取って変わりました。また、会員には初心者がいなくなり初心者に指導する楽しみが無くなりつつあります。発足当初は神田のスポーツ店に事務所がありスキー用品を買いに来た方を会員にしており会員には困ることがありませんでした。その後、リーダーおよび自分も含め仕事が忙しくなり我が家へ事務所を移すようになり、会員集めが難しくなりました。今や一番の課題は会員を増やすことになりました。HPを作成したり、会員1人が1名行事に友達を連れてくることをモットーに計画を実施しております。どこのクラブでも直面しているネガティブな事を述べましたが、なぜ30年近くも活動して来たのでしょうか。やはりスキーを通じての人との交わりとスキーをやっている時の楽しさがあったからだと思えます。最近はカービングラスキーをもっともっと楽しく滑るには体力が必要だと感じており、日々ストレッチや体力作りを努力しております。



クラブ紹介

382 ドリュースキークラブ 会長 鷗 孝一

初めまして、ドリュースキークラブです。設立は1976年、前会長（荒井敏充）で、都連に加盟いたしました。会員は35名、指導員1名、準指導員2名です。合宿は、シーズン3回（おもに苗場がホームグレンデです。）と有志で春スキーを行っております。

あまり大した活動は行っていませんが、おかげさまで25周年を向えました。2002年度より私が二代目会長を引継ぐことになり、若い力で明るく楽しいクラブ作り、生涯スポーツとしてスキーの向上に努めて行きたいと思えます。

尚、クラブ名ドリュースキーは、フランスの山の名前です。



クラブ紹介

383 ホワイトキャッツスキークラブ 今井 雅治

当クラブは昭和50年、同好の志が集まり発足しました。以来、振り返ってみると既に4半世紀が過ぎようとしております。発足当時の青年、淑女諸氏はスキーと伴に時代を過ごしてきた感があります。

現在会員数は約40名。指導員2名、準指導員5名がおります。若手組はスキー技術選手権への参加にも挑戦しております。一方、年長組は気迫の滑りをマスターズ選手権の参加で示しており、佐藤氏はマスターズ世界選手権での優勝も果たしました。

全員、スキーに対する入れ込みと熱意は雪がちらつく季節が近づくとともに、一層盛り上がりを見せます。

クラブ員は主に首都圏在住者ですが、一部長野、新潟の在住者も居りスキー講開催時には共に滑り、共に飲み、共に語り合い楽しい共通の時を過ごしております。

主な活動場所は、ホームゲレンデとして長野の戸隠を中心に毎年スキー講を開催しております。ここは、雪質バツグン戸隠そばの美味しいところです。

クラブのスキー講としては、まだ海外ツアーは行っていないため是非、夢を実現したいと皆で話し合っております。また、スキーの大好きな人達の入会を大いに歓迎しております。

クラブ紹介

385 スキーグループホワイトナイツ(白い騎士たち) 藤枝 茂伸

当クラブは昭和51年2月に発足し、その年の9月に東京都スキー連名に加盟いたしました。早いもので来年2月で発足25周年を迎えます。

活動内容は、12月の初滑りから、2月白馬岩岳、3月志賀一の瀬の公認スクール及び4月春スキーが主な行事ですが、平成7年10月に都下スキー連盟協議会に加盟してからは、1月の技術研修会や3月の野辺山スキー選手権などに参加しております。

また、シーズンオフにはテニス合宿やザウスでのトレーニングを主にしていますが、その他にもハイキングや釣り、ゴルフなど共通の趣味を通じて会員の親睦を図っています。

現在、スキー人口の減少とともに会員数も発足当初に比べると減少傾向にあり、クラブ行事への参加者数も頭打ちとなっているため今後はこれまでの活動内容を見直し時代のニーズにあったプログラムを提供できるよう改善を図り、自然にスキーヤーが集まるような魅力あるクラブづくりを目指して活動したいと思っております。



青い風の休日。車山高原

<http://www.kurumayama.com/>

●お問い合わせは
信州総合開発観光株式会社
長野県茅野市ビーナスライン車山高原 TEL:0266-68-2626

Joyful Resort

Big Location

Good Support



2002年度 SAT技術レベルアップ講習会

(特別養成講習会)

期 日 2002年2月9日(土)～2月11日(月)

会 場 車山高原スキー場

日 程 受付 2月9日(土) AM8:30～9:00 スカイプラザ2F
開会式 2月9日(土) AM9:00～ 同上
閉会式 2月11日(月) AM12:00予定 スカイプラザ横

クラウンプライズ検定会 2月11日(月)にクラウンプライズ検定を実施します。閉会式で合格を発表します。

参加資格 SAJ2級以上

指向別講習内容 ①1～2級の方のレベルアップ
ベーシックなスキー技術からカービング技術に至るまで。
★②指導員受検の方の合格をめざす
検定種目のトレーニング、チェックアドバイスを行います。
★③準指導員受検の方の合格をめざす
検定種目のトレーニング、チェックアドバイスを行います。
④クラウンプライズ受検の方のレベルアップ
検定種目のトレーニング、チェックアドバイスを行います。

申込手続 様式 教-14
期日 2001年12月10日(土)～2002年1月19日(土)
場所 (財)東京都スキー連盟 事務局
講習料 ¥15,000 クラウンプライズ検定料¥5,000 (別途)
(申し込み後の返金はいたしません)

備考 ※申し込み時に、①、②、③、④の講習内容を明記の上、申し込み下さい。
※②、③班は、3日目、合格をめざした模擬検定を実施します。
※①～④の受講班の、途中変更は受け付けません。
※講師は、後日発表いたします。
(②・③の講師には検定員候補を充てる予定です)
※詳細はアルマナックを参照して下さい。

菅平に温泉ができたよ



菅平高原温泉ホテル 桑田館

TEL 0268-74-2515

ピュアハウス サングリーン さん燦の湯

TEL 0268-74-2672

編集者

委員長 塚本哲夫
副委員長 花田知之
編集委員 三瓶一男 蒔野秀治 海老沢晃 土屋東明
矢島かおり 伊藤裕子 渡辺里美 打道隆
加賀陽子 小出千恵子 村山真三

